

# 木の言い分⑬

あなたは木と話せますか？樹木医は木と話せると言われます。我々樹木医や獣医は話せないことを前提にいろんな表情から相手の状態を知りコミュニケーションをとろうとする。それが会話をしているのと同じことになる。例えば、鉢に植えてある草花でもじっと見ていると幹・葉・根すべての表情に意思表示がある。それを樹木医学的に症状が云々というより以前に・・・水が足らなくなると“もうアカン”と言うし、かわいそうと水をやると“もう元気”と葉で話す。太陽に対しあっちゃこっちゃ気分で方向を向けると葉が目を回しているが如し。皆さん、よく見るといっぱい話したがっています。是非、お話をして生き物仲間として付き合ってください。特に樹木は人類に比べずごく長い命を持っている生物、あるものは数千年という考えられない時代を見てきたと思うと尊敬に値する。我々樹木医が診るというより、おこがましくて、教えてもらう事の方が多い。生活様態は、その生き物の生存を賭けた戦いの姿を表わし、その声が聞こえます。その鮮烈な生き様を今回は紹介します。

ひと呼んで“絞め殺しの木”、日本では和歌山から高知県、九州に自生する『アコウ』クワ科、先ずはその姿をご覧ください。

①はイスノキの幹に着床し、ほぼ幹の全面を覆う姿。

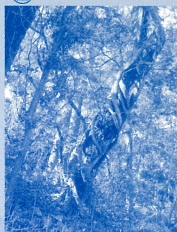
②は着床したイスノキが枯れてしまい空洞の幹の外を覆うアコウ（高知県松尾のアコウ、国天然記念物）足摺岬近くの村にあり、大きいものは樹齢300年と言われています。生きるために母屋を借り自分のものと誇示し、気が付けば母屋は亡くなってしまう。その姿にアコウの生き様を感じます。

③のアコウは室戸岬の海岸べりの岩に着床して気根を下ろし自由に広がって生きている姿。

①



②



③



あなたはいかが感じられましたか？

みどりの設計者は本来生き物として、木を良く知りお話をして、これからの住まいを決めてあげ、元気で皆と仲良く長生きするようにと花嫁を送り出す父の気持で描くものと・・・でも生き物ではなく、まるでファニチュアーの如く扱う方が多いのも事実です。この方は木の声を聞こうとも話そうともしません。

次回はまた違う生き様の姿を・・・乞うご期待！きっと誰かに似た生き様があるのでは・・・？